

作成日 2009 年 2 月 18 日

改訂日 2026 年 1 月 29 日

## 安全データシート

## 1. 【 化学品及び会社情報 】

製品名 **アトラクティブ**  
供給者の会社名称 丸和バイオケミカル株式会社  
住所 東京都千代田区神田須田町 2-19-23  
担当部門 開発本部 登録・環境グループ  
電話番号 / FAX Tel: 03-5296-2313 Fax: 03-5296-2323  
推奨用途 除草剤  
使用上の制限 農薬登録以外の使用は不可  
整理番号 22342-07

## 2. 【 危険有害性の要約 】

化学品の GHS 分類(分類 JIS)

環境有害性 水生環境有害性 短期(急性) 区分 1  
水生環境有害性 長期(慢性) 区分 1

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

警告

危険有害性情報

長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き【安全対策】

環境への放出を避けること。

【応急措置】

漏出物を回収すること。

【保 管】

なし

【廃 棄】

内容物、容器を関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄すること。

都道府県知事などの許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理すること。

## 3. 【 組成及び成分情報 】

化学物質・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名

クロリムロンエチル:

エチル=2-(4-クロロ-6-メトキシピリミジン-2-イルカルバモイル  
スルファモイル)ベンゾアート

成分及び含有量

化審法 No.

安衛法 No.

CAS No.

&lt;有効成分&gt;

クロリムロンエチル

25.0%

8-(2)-2233

90982-32-4

&lt;その他&gt;

鉍物質微粉、界面活性剤等

75.0%

(酸化チタン(IV))

0.96%

(1)-558

2-(3)-509

13463-67-7

(5)-5225

(石英(結晶))

0.22%

(1)-548

14808-60-7

## 4. 【 応急措置 】

意識がない場合、口から絶対に何も与えないこと。

中毒情報センターまたは医師に問い合わせるときや治療に行くときは、製品の容器またはラベルを持っていくこと。

吸入した場合	新鮮な空気の場所へ移す。症状が続く場合には、医療機関で診察を受ける。人工呼吸あるいは酸素吸入、場合によってはその両方が必要になることがある。
皮膚に付着した場合	中毒情報センターまたは医師に問合せ、治療のアドバイスを。直ちに汚染された衣服を脱がせる。皮膚を直ちに多量の水で 15-20 分間洗う。
眼に入った場合	中毒情報センターまたは医師に問合せ、治療のアドバイスを。目を開け水で 15-20 分間ゆっくり穏やかに洗う。コンタクトレンズを着用している場合は 5 分後に外し、その後も洗浄を続けること。
飲み込んだ場合	中毒情報センターまたは医師に問合せ、治療のアドバイスを。飲み込むことが可能ならコップ一杯の水を飲ませる。中毒情報センターまたは医師からの指示を受けないでおう吐を誘引しない。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状 応急措置をする者の保護に必要な注意事項	意識がない場合、口から絶対に何も与えないこと。 中毒情報センターまたは医師に問合せ、治療のアドバイスを。人に対する中毒の例は知られていない。また実験的中毒の症状も知られていない。 ばく露する可能性がある場合は、第 8 項の保護具の情報を参照。

## 5. 【 火災時の措置 】

適切な消火剤	水噴霧、耐アルコール泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素(CO <sub>2</sub> )
使ってはならない消火剤	知見なし。
火災時の特有の危険有害性	有害燃焼副産物: 火災時の煙には、元の物質に加えて、毒性や刺激性があるかもしれない様々な燃焼生成物が含まれていることがある。 燃焼生成物は以下のものを含むことがあり、またこれだけとは限らない: 炭素酸化物 窒素酸化物(NO <sub>x</sub> ) 燃焼生成物にさらされると、健康に危害を及ぼす可能性がある。 泡を使用するとかなりの量の水素ガスが放出されるが、泡で覆い閉じ込めることができる。 火災時には消火用水が排水溝ないし水路へ流出しないよう防止すること。
特有の消火方法	汚染した消火廃水は回収すること。排水施設に流してはならない。 火災の残留物や汚染した消火廃水は、関係法規に従って処理する。 消火剤を容器の内容物に接触させない。ほとんどの消火剤は水素の発生を引き起こし、消火すると、換気の悪い場所や密閉された場所に蓄積し、発火した場合、フラッシュ火災や爆発を引き起こす可能性がある。 安全であれば未損傷コンテナを火災領域から離す。 区域から退避させること。 現場の状況と周辺環境に応じて適切な消火手段を用いる。 未開封の容器を冷却するために水を噴霧する。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	消火活動時には必要に応じて自給式呼吸装置を装着する。 保護具を使用する。

## 6. 【 漏出時の措置 】

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	粉じんの発生を避ける。 適切な安全設備を用いること。追加情報として、第 8 項、暴露防止及び保護措置を参照。
-----------------------	---

環境に対する注意事項	<p>製品が河川、湖水または排水管を汚染した場合は、関連当局に連絡する。</p> <p>環境への放出は必ず避けなければならない。</p> <p>安全を確認してから、もれやこぼれを止める。</p> <p>汚染された洗浄水を保管し、処分する。</p> <p>流出が著しく回収できない場合は、地方自治体に通報する。</p> <p>土壌、排水溝、下水道、水路や地下水への流入を防ぐ。</p> <p>第 12 項、環境影響情報を参照。</p>
封じ込め及び浄化の方法及び機材	<p>本物質、ならびに放出物の清掃に使用した資材および品目の放出および処分については、地方または国の規制が適用される場合がある。</p> <p>粉じんを発生させないように留意して回収し、廃棄する。</p> <p>回収物質は、ベント付き容器に保管すること。</p> <p>漏洩物質が更に反応し、容器内が加圧状態になることがあるので、通気孔から水が侵入しないようにすること。</p> <p>廃棄に備え適切な容器に入れて蓋をしておく。</p> <p>こぼれたものは、掃きとるか掃除機で吸い取り、適切な容器に移し、廃棄する。</p> <p>追加情報として、第 13 項、廃棄上の注意を参照。</p>

**7. 【 取扱い及び保管上の注意 】**

取扱い	
技術的対策	皮膚、眼、そして衣服との接触を避ける。
安全取扱注意事項	<p>十分な衛生的作業を行い安全規定に従って取扱う。</p> <p>作業エリアでは、喫煙、飲食は禁止する。</p> <p>漏れや廃棄物を防止し、環境への放出を最小限にするよう注意する。</p> <p>適切な安全設備を用いること。追加情報として、第8項、暴露防止及び保護措置を参照。</p>
接触回避	強酸化剤、強酸、強塩基類
衛生対策	<p>取扱後および飲食、ガム、タバコの使用前、またはトイレ使用前には、石鹼と水でよく手を洗う。</p> <p>使用後は、全ての保護服を洗う。</p>
保管	
安全な保管条件	<p>密閉容器に保管すること。</p> <p>一度開けた容器は注意深く再度密封し、漏れを避けるためまっすぐ立てておく。</p> <p>適切なラベルのついた容器に入れておく。</p> <p>各国の規定に従って保管する。</p>
安全な容器包装材料	製品の容器包装材料にて保管する。

**8. 【 ばく露防止及び保護措置 】**

管理パラメータ  
適用職業曝露限界を以下に記載。

酸化チタン (IV)		
OEL-M(二酸化チタン)	1.5mg/m <sup>3</sup> (吸入性粉じん) 2mg/m <sup>3</sup> (総粉じん)	日本産業衛生学会許容濃度等の勧告(2025-12-15)
TLV-TWA(二酸化チタン)	10 mg/m <sup>3</sup>	ACGIH (2018)
石英(結晶)		
OEL-C (シリカ)	0.03mg/m <sup>3</sup> (吸入性粉じん)	日本産業衛生学会許容濃度等の勧告(2025-12-15)
TLV-TWA(シリカ)	0.025mg/m <sup>3</sup>	ACGIH(2018)

<p>設備対策 保護具 呼吸用保護具  手の保護具    眼、顔面の保護具 皮膚及び身体の保護具</p>	<p>適切な換気装置の下でのみ使用する。</p> <p>適切な許容限界を超えた濃度で、空気中の浮遊物質にばく露される可能性がある場所では、承認されたダストおよびミスト用カートリッジ付呼吸保護具を着用すること。</p> <p>この物質に対し耐薬品性のある手袋を用いること。 望ましい手袋の素材の例: ブチルゴム、塩素化ポリエチレン、ポリエチレン、エチルビニルアルコールラミネート (EVAL)。 許容できる手袋の素材の例: 天然ゴム (ラテックス)、ネオプレン、ニトリル/ブタジエンゴム (ニトリルまたは NBR)、ポリ塩化ビニル (PVC または ビニル)、バイトン。 注意: 特定の用途と作業場での使用時間に適合した手袋を選択するときは、以下に記す要件をはじめとして、作業上の要件をすべて考慮に入れる必要がある: 取り扱う可能性がある他の化学物質、物理的要件 (切傷・刺し傷の予防、機敏さ、熱の防護)、手袋の供給業者からの説明書・仕様書。</p> <p>この物質との接触を避けるため保護用眼鏡を着用する。 手袋、前掛け、長靴、カバーオールなどの保護衣を必要に応じて着用すること。 使用者および他の取り扱い者は次の保護具の着用が必要である: 長袖シャツおよび長ズボン 労働者保護基準 (Worker Protection Standard) により許可された取り扱い区域に早期に立ち入り、植物、土壌、または水のような処理物への接触が伴う場合、必要な PPE (個人用保護具) は次の通りである。 カバーオール 耐水性材料からなる耐薬品性手袋 ポリ塩化ビニル 靴とソックス</p>
<p>特別な注意事項</p>	<p>化学薬品用防護服は全て、使用前に目視点検をすること。服および手袋が、化学薬品で汚染されている、あるいは、物理的損傷を受けている場合は交換すること。 この製品を使用するとき、製品の最終使用者は保護措置に関するラベルの指示に従わなければならない。</p>

**9. 【 物理的及び化学的性質 】**

<p>物理状態 色 臭い  融点/凝固点  沸点又は初留点及び沸騰範囲 可燃性 爆発下限界及び爆発上限界 /可燃限界 引火点 自然発火点 分解温度 pH 動粘性率  溶解度</p>	<p>細粒 淡褐色 なし 臭いの閾値: 情報なし 融点: 情報なし 凝固点: 適用なし 適用なし 情報なし 爆発上限: 適用なし 爆発下限: 0.212g/L 非該当 330°C 情報なし 8 (含有量: 10g/L) 粘度 (粘性率): 情報なし 動粘度 (動粘性率): 非該当 水溶性: 分散</p>
--	--

n-オクタノール/水分配係数 (log 値)	情報なし
蒸気圧	適用なし
密度及び/又は相対密度	比重:情報なし 密度:情報なし かさ密度:400kg/m <sup>3</sup>
相対ガス密度	適用なし
粒子特性	粒子サイズ:情報なし
蒸発速度	非該当
爆発特性	爆発性なし
酸化特性	本製品は酸化性物質としては分類されない。
<b>10. 【 安定性及び反応性 】</b>	
反応性	反応性危険としては分類されない。
化学的安定性	指示通りに保管または使用した場合は、分解することはない。 通常の状態では安定。
危険有害反応可能性	推奨保管条件下では安定。 特に言及すべき危害要因はない。
避けるべき条件	情報なし。
混触危険物質	強酸化剤、強酸、強塩基類
危険有害な分解生成物	分解生成物は温度、空気の供給および他の物質の存在による。 分解生成物は以下のものを含むことがあり、またこれだけとは限らない: 炭素酸化物 窒素酸化物(NO <sub>x</sub> )
<b>11. 【 有害性情報 】</b>	
急性毒性(経口)	ラット LD <sub>50</sub> : ♂ ♀ >5000mg/kg(区分に該当しない)
急性毒性(経皮)	ラット LD <sub>50</sub> : ♂ ♀ >5000mg/kg(区分に該当しない)
急性毒性(吸入)	クロリムロンエチル ラット LC <sub>50</sub> : ♂ ♀ > 5.18 mg/L 曝露時間:4 h 試験環境:粉じん/ミスト 症状:この濃度では死に至らない。 アセスメント:この物質または混合物は急性の吸入毒性は無い。
皮膚腐食性/刺激性	ウサギ:皮膚刺激なし
眼に対する重篤な損傷性 /眼刺激性	ウサギ:眼への刺激なし
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性:情報なし 皮膚感作性:モルモット:皮膚感作性なし
生殖細胞変異原性	酸化チタン(IV) In vitro での遺伝毒性試験は陰性であった。
発がん性	動物実験では発がん性への影響は見られなかった。
生殖毒性	クロリムロンエチル 動物試験では、生殖を阻害しなかった。 実験動物において、母体毒性を示す用量でのみ催奇形性が認められた。 酸化チタン(IV) 動物試験では、生殖を阻害しなかった。 動物試験で催奇形性や他の胎児への影響はなかった。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	使用可能なデータの評価によれば、この物質は特定標的臓器毒性(単回ばく露)を示さない。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)  誤えん有害性 その他	石英(結晶) 標的臓器: 肺 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害。 入手可能な情報によると、誤えん有害性は確定されていない。 反復投与毒性 クロリムロンエチル 動物では、以下の臓器に影響することが報告されている: 肝臓 酸化チタン(IV) 種: ラット NOAEL: 1000 mg/kg 投与経路: 経口 方法: OECD試験ガイドライン 408 入手可能なデータによると、繰り返し暴露で、顕著な有害影響は予期されない。 石英(結晶) 種: ラット 投与経路: 吸入 動物では、以下の臓器に影響することが報告されている: 肺
--------------------------------------	--

## 12. 【 環境影響情報 】

生態毒性 魚類 甲殻類 藻類	コイ LC <sub>50</sub> 値(96hr) : >1000mg/L オオミジンコ EC <sub>50</sub> 値(48hr) : 341mg/L 緑藻 ErC <sub>50</sub> 値(72hr) : 0.0191mg/L 短期(急性): 藻類の ErC <sub>50</sub> 値より区分 1 とした。 長期(慢性): 急性区分 1 であり、急速分解性および生物蓄積性が不明であるため、区分 1 とした。
残留性/分解性 生体蓄積性	生分解性: 有効成分について、易分解性ではない。 製品は、難分解性、生体蓄積性、毒性(PBT)物質を 0.1%以上含んでいない。 製品は、極めて難分解性、高生体蓄積性(vPvB)物質を 0.1%以上含んでいない。
土壤中の移動性 オゾン層への有害性	情報なし クロリムロンエチル オゾン層破壊係数: この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。
他の有害影響	クロリムロンエチル PBT および vPvB の評価結果: この物質の難分解性・生体蓄積性・毒性(PBT)は評価されていない。

## 13. 【 廃棄上の注意 】

化学品、汚染容器及び包装の安全で、必須かつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報	廃棄物や容器の廃棄が製品ラベルの指示通りに行えない場合は、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 以下の情報は購入時の状態のときのみ適用される。使用後或いは汚染された場合、特性や記載事項が適合しない可能性がある。適切な法律に則ってきちんとした廃棄物の識別と廃棄方法を定める。生じた物質の毒性や物理的性質を決定するのは廃棄物排出者の責任である。 内容物や容器を廃棄する場合は、国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄する。
--	---

**14. 【 輸送上の注意 】**

国連番号	3077
品名(国連輸送名)	環境有害物質(固体)(クロリムロンエチル)
国連分類	9(有害性物質)
容器等級	III
海洋汚染物質	該当
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	国連番号3077及び3082に割り当てられた海洋汚染物質は、液体の場合には単一もしくは内装容器あたりの正味容量が5L以下、固体の場合には単一もしくは内装容器あたりの正味質量が5kg以下の単一もしくは組合せ容器において、IMDGコードセクション2.10.2.7、IATA特別規定A197およびADR/RID特別規定375に規定されるように、非危険物として輸送することができる。
国内規制がある場合の規制情報	国の特定の法規制は、第 15 項を参照する。
応急措置指針番号	171

**15. 【 適用法令 】**

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報	
農薬取締法	第 22342 号
化学物質排出把握管理促進法(化管法)	該当なし
労働安全衛生法	第 57 条 表示対象物、第 57 条の 2 通知対象物 結晶質シリカ 第 57 条の 2 通知対象物 酸化チタン(IV) 労働安全衛生規則第577条の2 がん原性物質 結晶質シリカ(石英)
毒物及び劇物取締法	該当なし
消防法	該当なし
船舶安全法	有害性物質
航空法	その他の有害物

**16. 【 SDSの作成と改訂に関する情報を含むその他の情報 】**

参 考 文 献:コルテバ・アグリサイエンス日本株式会社安全データシート

緊急連絡先:03-5962-9731(9時~17時 土日祝を除く)

公益財団法人 日本中毒情報センター(事故に伴い急性中毒の恐れがある場合に限り)

中毒110番 365日24時間対応

	一般市民専用電話 (情報料無料)	医療機関専用有料電話 (1件2000円)
大阪	072-727-2499	072-726-9923
つくば	029-852-9999	029-851-9999

医療機関の方が一般市民専用電話を使用した場合も、情報料1件につき2,000円を徴収します。

記載内容は十分な配慮に基づき作成しておりますが、新しい知見により改訂されることがあります。本データシートは情報を提供するものであって、品質や安全性等に関していかなる保証もするものではありません。危険・有害性等の評価は必ずしも万全ではありませんので、取扱いには十分注意を払って下さい。また、注意事項は通常の実施を前提としております。